

若手税理士による(一社)次世代税理士研究会が始動! キックオフの「税理士サミット」に300名超参加

AIが急速に進歩する一方で、業界では旧態依然たる状況が続く、税理士業界の将来が危惧されている。そんな中、危機感を持った若手税理士が「誰もが働きたいと思える業界に」との想いをもって、昨年12月に「税理士サミット」を開催。会場は300名を超える参加者で熱気に満ちていた。「税理士サミット」を主催した「次世代税理士研究会」は、この勢いで業界内に大きな影響を及ぼす組織となりうるのだろうか。

同研究会代表理事のひとりであるサン共同税理士法人代表社員の朝倉歩税理士に、ビジョンや将来構想を語ってもらった。



サン共同税理士法人
代表社員 朝倉 歩 税理士

一まずは、次世代税理士研究会設立に至った背景と経緯からお話ください。

背景にあるのは、社会の変化に遅れて明るい将来が見えない税理士業界の現状です。2023年はAIに多くの仕事が奪われることを実感する一年となったと同時に、税理士業界も大きく変わっていかないと取り残されてしまうということを強く実感しました。そのような状況で、税理士業界内での健全な競争というのも大事なのですが、税理士業界が団結して税理士業界以外から税理士業界を守る活動も大事、という話が税理士同志でよく話題になるようになりました。そこで税理士による税理士のための集まりがあってもいいのではないかと思い、活躍している税理士を集めてイベントを行うべく、昨年12月8日の税理士サミット開催へと進んできました。研究会は、収益志向ではなく、あくまでも他の業界から税理士業界が目されるような活動を行い、業界の価値を高めることを目的としています。また、サミットでは「税理士の集まりを楽しむ」ということも大事にしよう、ということも登壇者のやり取りでテーマとなりました。

一その研究会発足イベントとなった「税理士サミット」はかなり盛況でしたね。

はい、おかげさまで大きなインパクトを与えることができました。サミット開催の狙いは、業界に強いメッセージを発信すること、賛同者の研究会への参加を促すことにあります。当日は、本郷孔洋会長、中村真一郎先生、古田土満先生の3名による「今後の税理士業界について」と題したトークディスカッションに始まり、会計事務所のM&A、ChatGPTと会計事務所の今後、大手事務所のインボイス・電帳法対応、DX・AI・デジタル最先端事務所の活用事例、ここだけでしか聞けない会計人材採用のコツ、相続の現状と将来などについて業界をリードする税理士法人代表に講演いただきました。最後は、超有名税理士YouTuber降臨と題して6名の税理士の方に刺激的な話をいただき、大いに盛り上がりました。参加者は300名を超え、成長意欲があり常に情報収集されている税理士の参

加が多かった印象ですが、今勤務する事務所の状況に危機感を感じて参加された税理士資格保有の職員の方などもいました。参加者からの評価も高く、直後のメッセージは100を超え、X(旧Twitter)でもリアルタイムに「今、始まりました」「こんな企画を待っていました」などのメッセージが発信され、関心の高さや参加者のSNS利用率の高さを実感しました。また、「次世代税理士研究会」への参加表明も数多くいただきました。今回のサミットは本郷会長や中村総代表が趣旨に賛同くださったことが大きな原動力となり、成功を収めることができました。

一次世代税理士研究会では何を指すかと。

この研究会を一言でいうと、税理士による税理士のための組織であり、税理士業界の価値を高め、だれもが働きたい業界にするために交流・勉強を行う集団です。ミッションは「税理士業界の未来を拓く」。単なる知識の共有を超え、次世代の税理士業界を築くための具体的なアクションプランの設計を共に創造していこう、と呼び掛けています。

一税理士サミットをはじめとする税理士間交流のほか、どんな活動を行う予定ですか。

主に、①交流会、②オンライン配信、③勉強会です。①の交流会では、世代を超えた交流の場を企画したいと思っていますが、具体的にはまだ決まっていません。ただ、2024年も11月には東京国際フォーラム(仮)で税理士サミットを開催する予定です。②のオンライン配信は、当面、今回の税理士サミット登壇者との対談を配信する予定です。③の勉強会では、分科会形式で税制改正から、人材採用、AI、SNSの活用など、税理士を取り巻く課題の解決策を研究していきます。研究会の会員種別としては正会員と青年会員があり、正会員は税理士及び税理士事務所従事者が対象で、青年会員は39歳までの税理士有資格者を対象としています。この青年会員は、ITリテラシーの高い若い税理士にどんどん集

まってもらいたいとの思いで会費を無料としました。サミット参加者を中心に会員申込数も伸びています。

一当面の活動計画や目標などを教えてください。

まだ向こう1年間の活動計画を決めている段階ですが、オンライン配信はすぐにでも取り掛かります。ある程度の目標は必要ですが、それよりも、様々な得意分野を持つ税理士が楽しみながら集まって繋がることで、そこから柔軟に考えをまとめていきたいと考えています。研究会の目的は収益事業を行うことではありませんので、状況の変化を捉え盛り上げていきたいですね。そのために、理事は私をはじめ、今回の税理士サミットの運営にも深く携わっていただいた会計事務所RPA研究会代表取締役の大城真哉税理士とREBFLEET税理士事務所の笹圭吾代表税理士の3名で構成し、2週間に1回程度のミーティングで様々な企画を詰めていきます。

一働き方改革が求められている税理士業界内において、人材採用は喫緊の課題です。

まさにその通りで、今考えているのは、AIの研究・活用などといったテクノロジーに関する面だけではなく、業界の将来を担う若手人材の確保のための活動が極めて重要な課題です。会計人材の採用について言わせていただければ、税理士業界一般の採用方法は実に古典的で、他者任せだと感じています。例えば私の事務所では「X(旧Twitter)」で受験生向けに日々投稿していますが、「日本全国どこでも働ける会計事務所」としての「ゆるぼ投稿」では3日間で5万回表示、20件以上の応募がありました。マーケティング業界など一般企業では当たり前のようにSNSを使って、ダイレクトリクルーティング的な活動を展開しています。税理士業界もそのようなSNSやYouTubeを活用した採用活動ができる業界になっていかないと若者から憧れられるどころか見放されてしまいます。税理士業界で団結して他の業界から若い人材を呼び込んでいけるような

活動を行っていきたいです。

一それはいいアイデアですね。

すでに合同就職説明会や、メタバースを使った就職説明会などを通じて受験生へのアプローチを行い、SNSを通して繋がる仕組みを作り、学生が税理士事務所の仕事に興味を持って、税理士になりたいと思うようになってもらいたい。一方、AIの研究・活用ですが、最近では「税理士の仕事はAIに奪われる」と言われます。しかし、私は実際には「AIに精通した税理士に仕事が奪われる」、つまりAIを中心としたテクノロジーを武器に活用できる事務所が勝ち残る、と考えています。そうした流れを捉えていくと、AIに精通した税理士を中心に、業界のために成果をあげる活動を企画していかなくてはなりません。そのためにAIを勉強するための分科会も立ち上げたいと思っています。

一今までの話をまとめると、「次世代税理士研究会」の動きは、様々な課題に直面する税理士業界において必然的に発生したものと考えられます。その意味においては全国の税理士にとっては目の離せないものと言えるでしょう。

評価いただき、ありがとうございます。これから次世代税理士研究会が展開していく税理士業界の未来を拓く活動が、大きなうねりとなって業界の課題解決に役立つことになれば幸いです。

一最後に会員募集を兼ねて税理士にメッセージをどうぞ。

税理士業界は様々な課題を抱えており、それに立ち向かっていかなければなりません。それには社会全般の動きから方向性を捉えて、先進的な動きを取ることが有用です。そうすれば、他業界も注目し、税理士業界の価値向上が図れるでしょう。次世代税理士研究会は、業界の先頭に立って若手中心のうねりを創っていきます。趣旨にご賛同いただける方は、全国のそれぞれの地域で、一緒に大きなうねりを起こしていきましょう。それが業界の将来を切り拓くことであると確信しています。

free あえて“紙”にこだわった会報誌「Zeire:」無料定期配送を実施中

税界タイムス読者の皆様、新聞同梱の「Zeire:」特別号はご覧になりましたか? Zeire:はフリー(株)が隔月で発行する会計事務所向けの会報誌です。全体監修にエンジョイント税理士法人の智原翔悟先生をお迎えし、昨年4月、会計事務所働く方々や税理士の方にお届けするために誕生しました。

発刊の背景には「freeは顔が見えず、何を考えているかわからない」という声がありました。会計事務所働く方々は大切なパートナーです。そのパートナー

の皆様に対して私たちができることを考える前に、私たちが何者であるのか、どのような考えで活動しているのか、それらをお伝えすることが大切だと気づきました。忖度なしの真剣な思いを伝えるためにZeire:の企画を始めました。

「Zeire:」はA4用紙二つ折りの冊子です。ペーパーレス時代に紙で発行することにこだわったのは、「質量」がある形だからこそ「熱量」が届くのではないかと、サッと読める点、回覧が楽にできる点からです。

コンテンツは主に5つ。メインの「わたしの申告書」は、毎号税理士の方一人にフォーカスして、生き様、職業観、人生観に焦点を絞り作成しています。同紙面上の「MY TOOLMY RULE」ではその税理士の方の人生に寄り添うアイテムを取り上げます。これを通して、読者の方々が仕事をする上で大切なものを思い出さきっかけになりたいと思っています。

また「会計人NOW」では、幅広いテーマで隣の会計事務所の事務所運営ノウハウをご紹介します「知ってほしい、

freeのこと」では経営陣ほか、freeメンバーの生の声をお伝えします。箸休めの4コマ漫画「それいけ!チハラくん」では、毎回プロダクトの新しい機能やTipsをお気軽に知ることができます。

この機会に無料定期配送をぜひお申込みください。(freeパートナー事業本部Zeire:編集チーム)

【配送無料!】Zeire:定期配送申し込みフォーム

<https://forms.gle/osXMQDchxwHtjpsr5>

